

令和2年度事業報告
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

特定非営利活動法人 映像産業振興機構

1. 事業の経過

令和2年度の通常総会（7月28日開催）でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の状況につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

(1) 人材育成事業

① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成（ndjc2020） 文化庁
今年で15年目を迎えた本事業は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の最中、募集を開始しましたが、昨年を上回る21の映像関連団体より有望な若手作家44名の推薦をいただき、20名がワークショップ（7月22日～8月2日）に参加しました。

さらにその中から3名の作家が、制作プロダクションのご協力のもと、35ミリフィルム撮影による短編映画の製作実地研修に進み、無事、2月3日に東京・丸の内TOEI②で合評上映会を実施しました。その後、京都、大阪、名古屋にて合評上映会、2月26日より東京、名古屋、大阪にて一般の方に向けた有料の劇場公開を実施し新型コロナ禍にも関わらず良い成績を収めました。昨年度までに完成した70作品についても、引き続き発表機会（劇場上映、映画祭等）の提供を行っております。

また今年で3年目の「90分程度の映画脚本開発」は11月20日に1次選考者5名による業界関係者を招いた企画プレゼンコンテストを開催。谷本佳織監督の『旅打ち親子』（仮題）が選ばれ、その後、脚本開発研修を経て準備稿が3月に完成しております。

さらに昨年度開発された準備稿「梅切らぬバカ」は、本年度、「長編映画の実地研修」として製作し、3月12日に合評上映会を行いました。来期に劇場公開の予定です。

今年も以下の5名の出身監督が長編デビューを飾りました。今年の卒業生を入れて全73名のうち29名が長編デビューしたことになります。

平林勇監督(ndjc2007)『SHELL and JOINT』(20年3月公開)

藤澤浩和監督(ndjc2011)『レディ・トゥ・レディ』(20年12月公開)

吉野耕平監督(ndjc2014)『水曜日が消えた』(20年6月公開)
佐藤快磨監督(ndjc2015)『泣く子はいねぇが』(20年11月公開)
池田暁監督(ndjc2017)『きまじめ楽隊のぼんやり戦争』(21年3月公開)

出身監督の活躍に目を向けると、中野量太監督『浅田家!』、ふくだももこ監督『君が世界のはじまり』、岨手由貴子監督『あのこは貴族』等、話題作を続々発表しております。

② 令和2年度映画スタッフ育成事業 文化庁
将来の映画スタッフを育成するため、映画制作の現場での職業体験を希望する学生をインターンとして適切な映画制作現場へ派遣する人材育成事業を受託して3年目となりました。今年度は新型コロナ禍で前半に制作現場がストップし、学校もオンライン授業となりましたが、夏以降で学生の実習を実現させるべく、新型コロナウイルス感染防止対策を講じている制作現場と教育機関に積極的に働きかけを行いました。結果12作品、41名がインターンに参加しております。過去2年の年間実績は、2018:49名、2019:53名。

③ 映画・映像人材育成事業 京都府
京都府との事業は、昨年に引き続き『京都映画企画市』を受託しました。『京都映画企画市』は、従来通り時代劇映画の企画募集ですが、今年度は審査員に『るろうに剣心』シリーズの大友啓史監督と福島聡司プロデューサー、12回連続の掛尾良夫氏にお願いし、立命館大学との社会連携プログラムとSNS活動により、応募数が62企画と昨年度の倍、歴代最多となりました。10月31日にはWeb方式での企画相談会、11月8日は、京都みなみ会館で新型コロナウイルス感染防止対策をしての企画コンテスト&「酢と油」の完成披露上映会を開催しました。企画コンテストで選ばれた『水虎』のパイロット版も完成しております。

④ Netflix 映画・テレビドラマ制作従事者支援基金(新規) Netflix
Netflixが5月22日に設立した日本国内の映画やテレビ番組の制作従事者の生活を支援する「Netflix 映画・テレビドラマ制作従事者支援基金」の事務局運営業務を受託いたしました。
新型コロナウイルス感染症の影響により、現在世界中で数多くの映画やテレビドラマの制作が延期、もしくは停止を強いられる状況が続いています。Netflixは日本国内の映画・テレビドラマ制作に従事する方々の中で

も極めて生活への影響が大きい方々を短期的に支援することを目的とした
救援基金「Netflix 映画・テレビドラマ制作従事者支援基金」を VIPO 内に
設立し、VIPO は、募集から支給までの事務局業務を受託いたしました。な
お、Netflix は本基金設立にあたり、本年 3 月に発表したクリエイティブ
業界を支える目的で設立された支援基金より約 1 億円を VIPO に拠出しまし
た。

5 月 28 日に本基金への応募を開始し、7 月中に該当者への支援金の支払い
を終えております。

【(1) 人材育成事業及び(2) 内外の市場整備事業 にまたがる事業】

- ⑤ 令和 2 年度日本映画海外展開強化事業（新規） 文化庁
世界水準の映画制作の推進および日本映画の海外展開の強化を目的として
本年度文化庁より受託した一年目の事業です。今般の新型コロナウイルス
感染症の流行状況に鑑み、全業務をオンライン形式にて実施いたしまし
た。

主な業務は日本映画の特集上映、若手監督の実践研修、国内映画会社と海
外シネマテークのキュレーションマッチングです。特集上映は NY のジャパ
ンソサエティと連携し 29 本の日本映画をオンラインで配信しました。同時
に黒澤清監督のトークセッション等、10 名を超える監督のコメントを配信
しております。実践研修は応募者 51 名から選ばれた 3 名の監督が、NY を
ベースとするスクリプトドクター、プロデューサー、監督、編集者、映画
祭ディレクターより密度の濃い研修を受けました。プロデューサーはベネ
チア国際映画祭金獅子賞『ノマドランド』の方です。キュレーションマッ
チングは 3 月の EFM の期間に行われ、日本側 6 社、海外 10 団体が参加しま
した。

(2) 内外の市場整備事業

- ① 令和 2 年度コンテンツ海外展開促進事業（コンテンツ関連ビジネスマッ
チング事業） 経済産業省

日本コンテンツの国際取引活性化や新市場創出に資する、1. 新人・若手ク
リエイターが活躍できる機会を創出するビジネスマッチングモデルの確
立、2. 先進技術を活用し新たな連携が行えるビジネスマッチングモデルの
確立、3. 新興マーケットへ安心して進出できるビジネスマッチングモデル
の確立を目的とした、コンテンツ国際ビジネスマッチングイベントを引き
続き開催しました。

事業全体の枠組み



I. コンテンツ国際ビジネスマッチングの実施

- 1) 「アヌシー国際アニメーション映画祭 MIFA ピッチリレー」(6月16日~30日、オンライン開催)

新型コロナウイルスの影響で初のオンライン開催となった、世界最大のアニメーション映画祭、アヌシー国際アニメーション映画祭併設マーケット MIFA にて「Pitch Relay “Japanese Animation Makes Your World Brighter”」のタイトルで、オンラインピッチセッションを実施。新型コロナ禍の世の中に届けるための日本のアニメーションとしてまとまったメッセージ性を持たせるため、6社によるピッチを、MCのコメントでリレー形式につなぎ、約40分のビデオにまとめました。ビデオの配信は、合計221名が閲覧しました。

- 2) AAS (Asian Animation Summit) 企画ピッチ 紹介セミナー (6月25日、オンライン開催)

スピーカーとして AAS の議長である Kim Dalton 氏を迎え、アジアで最も本格的なアニメーションのピッチイベントを紹介しました。セミナー後の Q&A セッションでは、メンターリングの詳細やピッチ作品の選定の仕方等、具体的な質問が寄せられました。アンケートでは、参加者の9割以上がセミナーの内容に満足(有意義)だったと回答がありました。参加者は50名でした。

- 3) プチョン国際ファンタスティック映画祭 企画ピッチ「NAFF It Project」「NAFF Fantastic Film School」(7月9日~15日、オンライン開催)

アジア最大のジャンル映画企画マーケットであるプチョン国際ファンタスティック映画祭併設、「NAFF It Project」に、萱野孝幸監督、相川満寿美プロデューサーの企画『夜を越える旅』が参加し、両名が、世界から招待された出資者、映画祭担当者、プロデューサーなどを相手にオンラインでピッチ(個別商談)を実施。20件の商談があり、すべて商談を継続するという結果でした。

また、プロデューサー育成のプログラム、「NAFF Fantastic Film School」に、後藤美波氏(映画監督兼プロデューサー)、岡田洋平氏(STORIES LLC)が参加し、世界のマーケットで、主にジャンル映画の企画や作品を売るノウハウを得るための、ワークショップや業界エキスパートとのトークセッションなどに参加いたしました。

- 4) ベルリン国際映画祭「European Film Market / Berlinale Co-Production Market」紹介セミナー(7月28日、オンライン開催)

「European Film Market (EFM)」のディレクターを務めているMatthijs Wouter Knol氏を迎え、EFMの概要や日本から参加するメリット等をお話いただきました。また「Berlinale Co-Production Market」については、同マーケットの創設者の一人であるMartina Bleis氏からマーケットについての概要と、過去の事例や実績、これから参加を考えているプロデューサーに求める参加基準などを解説いただきました。参加者は37名でした。

- 5) 上海国際映画・TV祭 ビジネスマッチング(7月31日~8月5日、オンライン開催)

中国最大規模の映画・TVイベントにて、オンラインビジネスマッチングを実施しました。結果は、日本側参加企業25社、商談数35件、商談継続件数17件でした。今回、イベント主催者側としてもオンラインマッチングが初の試みだったことから、登録や資料掲載等でスムーズに行かない等の混乱も見られました。

- 6) 「ChinaJoy 日中オンライン・マーケット」(8月17日~9月7日、オンライン開催)

中国音像与数字出版協会遊戯出版工作委员会との共催で、日本と中国

のウェブサイト上でのビジネスマッチングを実施しました。日本からはゲームやアニメーションのプロダクション 46 社、中国からはゲーム制作会社やディベロッパー等 31 社が参加しました。オンライン・マーケットは、商談予約が取りやすく、新規取引先開拓に活用できる有効なツールとなりました。日本企業のアンケートでは、7割以上が「再び、日中オンライン・マーケットに参加したい」と回答しました。また、商談件数は 91 件、成約見込み件数は 21 件（見込金額：2.37 億円）でした。※JETRO と一部共催実施

7) 「ロシア」コンテンツビジネス攻略セミナー【入門・アニメ編】(8月25日、オンライン開催)

ロシアのコンテンツ産業を知り、ロシア市場の開拓を目的とするセミナーを開催しました。日本とロシアからスピーカー2名を迎え、最新マーケット情報、日本コンテンツのアドバンテージや市場参入のヒントなどについてプレゼンテーションをしました。参加者は 163 名。

スピーカー：

高橋渉氏 (Deloitte & Touche CIS ジャパンサービスグループ ディレクター)

エフゲニー・コリチューギン氏 (Istari Comics Publishing, General Director, Wakanim, Marketing Manager in Russia)

8) 「ロッテルダムラボ 報告&紹介セミナー」(9月24日、オンライン開催)

ロッテルダム国際映画祭の企画マーケット (CineMart) の一部として実施されている、プロデューサー育成プログラム「ロッテルダムラボ」。昨年度のロッテルダムラボ 2020 に参加した日本人プロデューサー、青山エイミー氏、汐田海平氏、宮瀬佐知子氏の 3 名が、期間中に実施されたプログラム内容や、ピッチング、現地でのネットワーキングなど、それぞれが、参加して学んだこと、体験したこと、感じたことなどを、報告・情報共有していただくセミナーを開催しました。

参加者は 25 名。実施したアンケートの回答者の全員が、「有意義だった」と回答しました。

9) 「釜山国際映画祭 APM(Asian Project Market) & E-IP Market 出展とピッチ」(10月26日～28日、オンライン開催)

釜山国際映画祭併設の企画マーケット「Asian Contents & Film

Market」に日本の実写 5 企画が参加し、ピッチ（個別ミーティング）計 13 件を実施しました。また、同時開催の「E-IP マーケット」には日本として初出展し 8 社が参加。映像化を目指す出版物（書籍／電子書籍／脚本等も可）に関して 52 件の商談を実施しました。

10) 「TIFFCOM 企画ピッチ (JMAP - Japanese Movie & Animation Pitching)」(11 月 5 日～9 日、オンライン開催)

国際共同製作を目指す、日本の実写映画/アニメーションのプロデューサー 10 名による、英語でのピッチング映像の配信を実施しました。各ピッチには、海外の映画祭企画マーケットの担当者や海外メジャーアニメーションスタジオのバイヤーからのコメント、フィードバック付き、合計 124 名が視聴しました。尚、10 名の参加者には事前に全 5 回の英語ピッチトレーニングを実施しました。

11) 「Asian Animation Summit (AAS) 企画ピッチ」(11 月 16 日～27 日、オンライン開催)

アジアで最も本格的なアニメーションのピッチイベントにおいて、初参加の日本から共同製作や出資のパートナー探しに積極的なプロデューサーがピッチを行いました。応募 8 社 13 企画から、4 社（東映アニメーション、Flying Ship Studio、ABC アニメーション、マーザ・アニメーションプラネット）の企画を選考し、イベント専属メンターによる 1 週間の集中ピッチメンタリングを受けた後、1 企画 30 分のオンラインピッチを行いました。オンラインピッチでは、4 人の VIP バイヤーから開発の参考になるフィードバックをもらい、同時にネットワーキングの機会も得られる貴重な場となりました。4 企画の合計視聴数は 822 回、商談数は 54 件でした。

12) 「日本コンテンツ、ハリウッドビジネスへの可能性！～北米 TV 業界丸わかり解説セミナー」(11 月 27 日、オンライン開催)

日本では、あまり詳しく知られていない北米 TV 業界について、Amuse Group USA, Inc.の朽網泰匡（くたみやすまさ）氏に、業界の全体像から、「米国における日本 IP のニーズ」「ハリウッドは何を欲しがっているのか」「米国の TV 制作で大切なこと」などについて、わかりやすく解説していただくセミナーを開催しました。セミナーの参加者は 115 名。アンケートでは、回答者の 90%以上から「有意義だった」と回答をいただきました。

13) 「MIPCHINA アニメセミナー企画」(11月24日～12月31日、オンライン開催)

中国・杭州で開催されている MIPCHINA (主催：リードミデム) の一環として、中国のビジネス関係者へ向けて日本アニメの海外展開、中国との共同製作事例、日中でビジネスを行う場合の **Tips** 等を紹介しました。講師は、分部悠介氏 (IP FORWARD グループ総代表・CEO)。

14) **GMS(Guild of Music Supervisors)** セミナー「ハリウッド映画音楽監督に学ぶ！映像&音楽のシンクロビジネスの現状とライセンス攻略法」(12月4日、オンライン開催) 協力：一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)

米国のミュージック・スーパーバイザーの組合 (Guild of Music Supervisors=GMS) のプレジデントを務める Joel C High 氏と創設者の Jonathan McHugh 氏を迎え、映像における音楽の効果的な売り込み方法、ライセンスする際の留意点、サブスクリプション・メディアの拡大における映画と音楽のシンクロの最新事情などを教えるセミナーを実施しました。127名がライブ視聴、その後アーカイブ映像は250回以上再生されました。

15) 「Rotterdam Lab 2021 若手映画プロデューサー参加支援」(2021年1月25日～2月5日、オンライン開催)

「ロッテルダム国際映画祭」の企画マーケット (CineMart) の一部として実施されているプロデューサー育成プログラム「Rotterdam Lab」へ、大橋哲也氏 (株式会社 CinemaLeap)、増淵愛子氏 (フリーランス)、森重宏美氏 (株式会社バンダイナムコアーツ) の3名の若手プロデューサーの参加を支援しました。全世界から74名のプロデューサーが参加。3名は、ピッチング、脚本開発、プロデュース、マーケティング、マネジメント、共同製作などについて学び、配給会社等との個別ミーティングも積極的に実施し、ネットワーキングを構築する場としても、非常に有意義な機会となりました。

16) 「Kidscreen Summit Virtual 2021 ジャパンパビリオン出展」(2021年2月8日～3月5日、オンライン開催)

北米最大のキッズエンターテインメント産業見本市である Kidscreen Summit Virtual において、ジャパンパビリオンを出展。今年は3度目の

出展でしたが、初めてのオンライン参加となりました。子供・ティーン向けコンテンツを持つ日本企業に、海外マーケットへ作品を展開するための商談機会を提供しました。今までで一番多い13社が参加しました。

17) 「ロシアコンテンツマーケット ビジネスマッチング」(2021年2月25、26日、オンライン開催)

日本のコンテンツに高い関心を持つロシアのVODプラットフォーム、ケーブルテレビ、ディストリビューターなど6社と、アニメを中心とした日本のコンテンツ企業17社によるミーティングを開催しました。双方から参加する企業の特徴を精査し、前もってロシアマーケットの特徴や、プレゼンテーションのポイントをレクチャーするオリエンテーションを開催。成功率を高めるため、事前に相互の会社情報を共有したことにより、効率的なビジネスマッチングの場を設けることができました。合計商談数は92件でした。

18) 「ベルリン国際映画祭 EFM 企画マーケット Berlinale Co-Production Market Visitors Programme 参加」(2021年3月1日～5日、オンライン開催)

国際共同製作について学ぶ「ビジターズプログラム」に新鋭映画プロデューサー5名の参加を支援しました。期間中、スピードマッチングや業界プロフェッショナルによるトークセッション、国際共同製作について国別で意見交換する「カントリーセッション」、そして実際に実現した国際共同制作のケーススタディセッション等が行われ、参加者同士のネットワーキングを構築する場としても、非常に有意義な機会となりました。また、VIPOは「カントリーセッション」に登壇し、日本の国際共同製作における支援について紹介させていただきました。

19) 「TTB(Ties That Bind)紹介セミナー」(2021年3月9日、オンライン開催)

実写プロデューサー向けワークショップTTBについて紹介をするセミナーを開催いたしました。登壇者として、プログラム責任者のChristophe氏、TTB主催者のAlessandro氏、Tanika氏、過去の参加経験者である、筒井龍平氏、水野詠子氏、Stephan氏を招き、Christophe氏には、ワークショップの内容、参加方法などの詳細を紹介いただき、他登壇者の方には、トークセッション形式で、ご自身の参加経験を共有していただきました。セミナー参加者は、日本の若手プロデューサー、映画関係者など38

名でした。

- 20) 音楽シンクロセミナー「海外の映像作品で自分の楽曲が流れるために、今すべきこと」(2021年3月19日、オンライン開催) 協力: 一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)

ハリウッド作曲家エージェンシーである **Soundtrack Music Associates (SMA)**出身の、ハリウッド作曲家エージェンツであり音楽プロデューサーの備 耕庸氏をスピーカーに迎え、日本人として北米のコンテンツへ音楽の売り込みを行っている現場経験に基づき、日本の音楽制作者等に向けたアドバイスを行うセミナーを実施しました。

- 21) TPPF (Tokyo Project&Pitching Forum) 合同会議 (2020年5月11日~2021年3月5日、オンライン)

TIFFCOM 期間中に開催される3つの企画ピッチ、

【MPA/DHU/TIFFCOM マスタークラス・セミナー&ピッチング・コンテスト】【VIPO Japanese Movie & Animation Pitching (JMAP)】【Tokyo Gap-Financing Market (TGFM)】、その関係者、各担当者(経産省、総務省、ユニジャパン、VIPO)が一堂に会し、各内容の情報共有、全体のプロモーションを共同で行い、対外的なPRを最大化する目的で、合同会議を定期的で開催しました。(計8回開催)。

【ビジネスマッチング実施スケジュール】

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1. アヌシー国際アニメーション映画祭 MIFA ビッチリレー		準備			★6/15~30	実施済							
2. (AAS) Asian Animation Summit 企画ビッチ 紹介セミナー		準備			★6/25	実施済							
3. ブチオン国際ファンタスティック映画祭 企画ビッチ「NAFF It Project」「NAFF Fantastic Film School」		準備			★7/9~14	実施済							
4. ベルリン国際映画祭 (European Film Market) 企画マーケット 紹介セミナー		準備			★7/28	実施済							
5. 2020上海国際映画・テレビ祭 ビジネスマッチング		準備			★7/31~8/5	実施済							
6. China Joy 日中オンライン・マーケット		準備			★8/17~9/7	実施済							
7. 「ロシア」コンテンツビジネス攻略セミナー【入門・アニメ編】			準備		★8/25	実施済							
8. 「ロッテルダムラボ 報告 & 紹介セミナー」				準備	★9/24	実施済							
9. 釜山国際映画祭 APM (Asian Project Market) & E-IP Market 出展 & ビッチ				準備	★10/26~10/28	実施済							
10. TIFFCOM 企画ビッチ (JMAP-Japanese Movie&Animation Pitching)				準備	★11/4	実施済							
11. Asian Animation Summit(AAS) 企画ビッチ				準備	★11/16~11/27	実施済							
12. 日本コンテンツ、ハリウッドビジネスへの可能性！～北米TV業界丸わかり解説セミナー					準備	★11/27	実施済						
13. MIPCHINA アニメセミナー 企画					準備	★11/24~12月	実施済						
14. GMS(Guild of Music Supervisor) セミナー					準備	★12/4	実施済						
15. Rotterdam Lab2021若手映画プロデューサー参加支援							準備	★1/25~2/5	実施済				
16. Kidscreen Summit Virtual2021 ジャパンパビリオン出展							準備	★2/8~3/5	実施済				
17. 「ロシア」コンテンツマーケット ビジネスマッチング							準備	★2/25~2/26	実施済				
18. 「ベルリン国際映画祭 EFM 企画マーケットBerlinale Co-Production Market Visitors Programme参加」							準備	★3/1~3/5	実施済				
19. TTB (Ties That Bind) 紹介セミナー							準備	★3/9	実施済				
20. 音楽シンクロナイザー「海外の映像作品で自分の楽曲が流れるために、今すべきこと」							準備	★3/19	実施済				
コフェスタ		準備			★7月	より順次実施							

II. ビジネスマッチング運営会議の実施

- 1) 「コ・フェスタ 2020 実行委員会」(7月17日、ハイブリッド開催)
コンテンツ業界団体、関係省庁、政府機関、関係自治体の代表及びコンテンツ関連イベント主催者の代表で組織をし、各イベントの内容紹介、今年度の事業内容について説明を行い、イベント間の連携と情報共有を図りました。新型コロナウイルス感染防止対策の為、随行者の方には極力配信による視聴をしていただきました。

場所：野村カンファレンスプラザ日本橋6F大ホール

出席者総数：42名 内訳：委員-21名(代理9名含む)、委員同伴者-13名 【委員オブザーバー6名】、イベント関係者-8名(代理4名含む)、【イベント関係者オブザーバー8名】

- 2) 「第1回ビジネスマッチング運営会議」(6月16日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課
映像産業振興機構 (VIPO)

公益財団法人ユニジャパン
一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)
一般社団法人日本動画協会 (AJA)

新型コロナ禍において、各イベントの進捗状況説明及び開催形式（リアル or バーチャル）の方向性について、各担当者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)、一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)、一般社団法人日本動画協会 (AJA)）より、説明がされました。

VIPO が実施したマッチング事業/イベントに関して、予定企画、オンライン開催実施済みの事業についての報告をしました。

経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課ご担当者より、「ジャパンコンテンツ」という形でロゴの作成をし、コンテンツの海外展開に活用したい旨、来年度の概算要求を見据え、HOME&AWAY をベースとして検討中の情報共有がなされました。

ビジネスマッチングの新しい時代にあった新しい形を探していく、意見交換がされました。

3) 「第 2 回ビジネスマッチング運営会議」(9 月 18 日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課
映像産業振興機構 (VIPO)
公益財団法人ユニジャパン
一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)
一般社団法人日本動画協会 (AJA)

各イベント担当者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)、一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)、一般社団法人日本動画協会 (AJA)）より、新型コロナ禍のイベントの進捗状況、開催形態の報告、また、VIPO が実施した各ビジネスマッチング事業の実施及び進行中の報告がされました。

経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課ご担当者より、新型コロナ禍においてのビジネスマッチング事業は、オンライン実施、ハイブリッドでできれば、リアルも実施して行きたいとの旨のお話がありま

した。
現在までにオンラインで実施した事業の良い点、悪い点の情報共有を
しました。

4) 「第3回ビジネスマッチング運営会議」(12月18日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課
映像産業振興機構 (VIPO)
公益財団法人ユニジャパン
一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)
一般社団法人日本動画協会 (AJA)

新型コロナ禍において、主要イベントの開催がオンラインにて実施され各イベント担当者(公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)、一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)、一般社団法人日本動画協会 (AJA))より実施報告。また、VIPOが実施した各ビジネスマッチング事業の実施及び進行中の報告がされました。実際にオンラインで実施した結果、課題点について共有。経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課ご担当者より、オンライン化によって、メリットも生まれているので今後もどのようにやって行くか考えていきたい旨のお話がありました。

5) 「第4回ビジネスマッチング運営会議」(2021年2月26日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課
映像産業振興機構 (VIPO)
公益財団法人ユニジャパン
一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)
一般社団法人日本動画協会 (AJA)

各イベント担当者(公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)、一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)、一般社団法人日本動画協会 (AJA))より実施、アンケート集計の終わったものから報告。また、VIPOが実施した各ビジネスマ

マッチング事業の実施及び進行中の報告がされました。
オンライン化したことによる、世界に向け配信や参加が可能になった点やキャパが無制限等の良い点、またネットワーキングの構築、マーケットとしての存在意義などの課題点など、実施したことにより明確になったことを共有。経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課ご担当者より、年内は難しいが、アフターコロナを念頭に、ビジネスマッチングをより良い方向へ進めていきたい旨のお話がありました。

② 令和2年度コンテンツ海外展開促進事業（コンテンツ海外展開のための官民連携体制構築事業）（新規） 経済産業省
日本コンテンツ産業の一層の拡大を図ることを目的に、アジア各国・地域のコンテンツ産業の振興を目的とする国際会議（「日中韓文化コンテンツ産業フォーラム」「アジア・コンテンツ・ビジネス・サミット（ACBS）」）等の運営を通じて、日本コンテンツ産業の国際展開とアジア全体のコンテンツ産業の流通促進に努めます。

- 1) 「日中韓文化コンテンツ産業フォーラム 事前準備会合」(9月25日、パークタワー東京、オンライン開催)
11月5日(木)に開催の「第13回日中韓文化コンテンツ産業フォーラム」の説明や質疑応答、三カ国政府間会議について、そして併催イベントであるTIFFCOMにおけるオンラインパネルディスカッション/オンラインセミナーについて情報共有しました。
- 2) 「日中韓文化コンテンツ産業フォーラム 本会合」(11月5日、パークタワー東京、オンライン開催、連携イベント：TIFFCOM)
三カ国政府間会議や各国代表スピーチの後、COVID-19が各国コンテンツ産業に与えた影響やAfterCOVID-19、WithCOVID-19の世界におけるデジタルコンテンツの役割について議論が行われました。
また、オンラインパネルディスカッションやセミナーも実施され、三カ国の共同制作の可能性や各国のヒットトレンドが紹介されました。
全体の視聴数は113名でした。
- 3) 「Asia Content Business Summit (ACBS) 2020」(オンライン開催)
新型コロナ禍で一堂に会すことができなかつたため、「Covid-19を克服した」アジア諸国の取り組みを、ショートフィルム/ドキュメンタリーという表現を通じて、世界に向けて発信しました (Project 19)。応

募 34 作品（7 の国と地域）の中から、ACBS committee が 19 作品まで絞り込み、日本を含む 5 カ国の最終審査委員により、アワード受賞 3 作品を決定しました。日本からは、4 作品が最終選考に残り、見事に『窓越しのキス』（小高沙里監督）が最優秀賞に選ばれました。また、別企画として、香港フィルムアート（2021 年 3 月 18 日）において、オンラインパネルディスカッション（テーマ：“Embracing the Digital Transformation in the Content Industry in Asia”）を実施しました。

- ③ マンガ家志望者支援事業（京まふ 2020）京都市
今年度より京都市から『マンガ家志望者支援事業』を受託して「京都国際マンガ・アニメ大賞」と「マンガ出張編集部」&「マンガ道場」を実施しました。「京都国際マンガ・アニメ大賞」は本年度から CG アニメコンテスト部門が加わり、マンガ、イラスト、アニメーションの三部門体制となりました。応募総数 1,621 作品、87 ヶ国/地域からの応募がありました。新型コロナウイルス感染防止対策を考え、「マンガ出張編集部」は新設した「マンガ道場」と会場を京都国際マンガミュージアムに移し、10 月 17 日、18 日、11 月 21 日、22 日の四日間開催しました。11 月 21 日には「京都国際マンガ・アニメ大賞」の表彰式を実施しました。本年度の大賞受賞者の Gene（ジーン）さんは、マンガ部門&イラスト部門の二冠となっております。2017 年の入選作品『時渦』が今年の台湾最大の漫画賞「金漫奨」の最高賞を受賞と実績が出てきました。「マンガ出張編集部」参加の編集部から、受賞者へアプローチしたいとの旨も受けており、育成支援事業として機能してきております。

- ④ コンテンツグローバル需要創出促進・基盤整備事業費補助金経済産業省
令和元年度補正予算による「コンテンツグローバル需要創出促進・基盤整備事業費補助金（J-LOD）」の募集の一部を令和 2 年 2 月 19 日より開始しました。今年度は、1) コンテンツ等の海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業、2) 海外向けコンテンツ制作に資する資金調達・人材育成を行う事業、3) 先進性の高いコンテンツの開発/制作・発信を行う事業、4) コンテンツのサプライチェーンの生産性向上に資するシステム開発を行う事業、5) デジタル配信を念頭においたストーリー性のある映像の制作・発信を行う事業の 5 種類の補助金となります。
事業の略称：「J-LOD」（読み：ジェイロッド、LOD 意味：Localization &

Distribution)。

1)の補助金は178件が採択されました。また、2)の補助金は34件、3)の補助金は9件、4)の補助金は9件、5)の補助金は32件がそれぞれ採択されました。

データベース関連事業として、JACC/JCB/VISSに関する事業も同時に実施しました。詳細については、(3)-(5)情報サービス事業で別途説明します。

J-LOD申請促進のためのオンラインセミナーを開催しました。開催状況は以下の通りです。

I. 「Marche du Film」 (6月4日)

参加者：79名 スピーカー：Mr. Jerome Paillard (エグゼクティブ・ディレクター)

II. 「フランクフルトブックフェア」 (8月12日)

参加者：31名 スピーカー：MR. Holger VOLLAND (Frankfurt Book Fair バイス・プレジデント)、 MS. Beatrice STAUFFER (同 キーアカウントマネージャー)

⑤ コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金 (J-LODlive)

経済産業省

令和2年度補正予算による「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金 (J-LODlive)」の募集を令和2年5月27日より開始しました。今般の新型コロナウイルス感染症のまん延の影響を踏まえ、これにより公演を延期・中止した主催事業者に対して、今後実施するライブ公演の開催及びその収録映像を活用した動画の制作・配信の費用の一部を補助するものです。事業の実施期間は、予算の繰越しに伴い延長され、令和4年3月31日までとなっております。3月17日現在、22,363件採択されており、予算消化率は94.3%となっております。

⑥ 令和2年度コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金

経済産業省

令和2年度補正予算による「コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金」の事務局を令和3年3月に受託致しました。(J-LOD)

⑦ 令和2年度「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金 (三次補

正) (J-LODlive2) 経済産業省
令和2年度(三次補正予算)「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金」の事務局を令和3年3月に受託致しました。

- ⑧ コンテンツ活用促進事業 東京都
令和2年度予算における当該事業の事務局を受託しております。この事業では、コンテンツ企業と異業種企業(「製造」・「医療」・「教育」・「商店街」・「小売り」)を軸に募集)のニーズを踏まえたセミナーを開催すると共に、相互の連携を促進するためのマッチング交流会を今年度はオンラインにて12月9日(水)・10日(木)の2日間開催致しました。

■マッチング交流会(1.5日開催・122マッチング実施)

参加企業数

コンテンツ企業 24社(昨年度40社)

異業種企業 15社(昨年度15社)

オブザーバー企業 10社

- ⑨ 令和2年度メディア芸術海外展開事業 文化庁
文化庁が主催している『メディア芸術祭』の受賞作品・作家等を中心に海外で紹介・展示・プロモーションする事業です。
毎年、6月にアヌシー国際アニメーション映画祭(フランス)、9月にアルス・エレクトロニカ(オーストリア)、11月にマンガバルセロナ(スペイン)で上映・展示・パフォーマンス、トークイベント等を実施し、他に10ヵ所程度のフェスティバルでの上映を行っていましたが、今年度は全てオンラインでの実施となりました。
6月のアヌシーは、東京藝術大学副学長の岡本美津子先生を企画ディレクターに迎え、「Animationism -All Creativity Welcomed-」というテーマの下、4つのスタジオと2名のクリエイターのインタビュー、また、新進アニメーション作家5名の取材を行いました。また、上映もオンラインで3回限定のストリーミング上映を実施しました。結果的には、1ヵ月で昨年のアクレディ購入者数の1.3倍のアクセス数(15,500)を達成、4ヵ月で2万アクセスを超えています。
9月に実施したアルス・エレクトロニカもオンライン中心の実施となったため、フェスティバルとの連携特設サイトを制作し、展示とイベントを行いました。ライゾマティクスの齋藤精一氏を企画ディレクターに迎え、「TOKYO GARDEN」というテーマの下、日本のメディアアートの過去・現

在・未来を紹介し、考察する企画を実施。展示作品 10 作品、インタビュー映像 2、トークカンファレンス 3、オンラインイベント 3、連携ウェブサイト 2 で、参加アーティスト／キュレーターが 50 名超というボリュームのある企画となりました。

また、10 月 30 日～11 月 1 日にはマンガバルセロナ（オンライン）との連携企画を実施。スペイン在住の日本マンガの研究者・翻訳家であるマルク・ベルナベ氏を企画ディレクターに迎え、日本マンガの多様性をテーマに特設サイトでの展示とオンラインイベントを実施しました。特集展示は昨年度のメディア芸術祭マンガ部門新人賞を受賞した『メタモルフォーゼの縁側』（鶴谷香央理）、また、メディア芸術祭受賞作品の中から、企画テーマに沿った 5 作品を紹介。さらにオンラインイベントとして生配信を含む 3 つのプログラムを配信しました。

⑩ アーカイブ中核拠点形成モデル事業 文化庁

3 年目となる、映画関連の非フィルム資料のアーカイブに係る中核拠点形成（京都）のための調査研究等、事業を受託しました。

今年度の主な事業は、調査研究範囲を関西地区から東京調布地区に広げた事、全国の映画資料所蔵館を広く紹介する「全国映画資料館録 2020」を作成した事、「映画資料所在地情報検索システム（略称：JFROL）」（検案件数 7 万件、検索点数 27 万件）を構築した事、JFROL 上でデジタルアーカイブ実証研究を実施した事、「全国映画資料アーカイブサミット 2021」の開催であります。

⑪ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査（新規） 文化庁

全国のフィルムコミッション(FC)が保有している情報をネット上に集約し国内外に向けて情報提供を行う「全国ロケーションデータベース(JL-DB)」利用促進のための調査事業です。運営事務局をジャパン・フィルムコミッション(JFC)とコンソーシアムを組み双方のネットワークを活かした運営を行いました。

具体的には、JL-DB システムの課題等について調査を実施し、新 JL-DB システムへの改修変換を完了しました。利用者目線を徹底して利便性・操作性が大きく改善されております。掲載されているロケ候補地も 7000 か所を超えております。また、JFC 会員向けに「海外制作者セミナー」を 3 月に実施しました。加えて地域 FC の受け入れ態勢強化の一環として JFC と連携し、諏訪市で開催した「JFC アワード」(8 月)、「JFC ロケ地マップフェア 2021(ツーリズム EXPO 内)」(1 月 - 中止)、「JFC 認定研修 2021」(1

月)、「JFC 全国ロケ地フェア 2021」(2月)、「JFC スキルアップ研修 2021」(2月)については昨年度のサポートに引き続き、本年度は運営・サポートを行いました。

- ⑫ 大型映像作品ロケーション誘致に関する実証調査事業 内閣府
内閣府知的財産戦略推進事務局による「ロケ撮影の環境改善に関する官民連絡会議」における議論等を踏まえ実証調査として行う事業です。日本をロケ地として製作・撮影されるいわゆるハリウッド映画のような海外大型映像作品に対し、製作費用の一部を実費支援してロケ誘致の成功事例を創出し、それによる地域経済の振興等の効果を調査・把握する事を目的としています。

本年度は日本を舞台とする海外製作が新型コロナ禍の為に非常に厳しい状況となりましたが、1件の大型作品の応募があり採択しました。無事、ロケを実施し、対象期間のみで約10億円の製作費を日本で使っております。また、効率的かつ確実性の高い効果測定を行うには、測定算出モデルを用いることが必要となります。現在使用している算出モデルは10年以上前の指標のため、見直しが必要との指摘がなされておりましたが、今回の調査で新たな算出モデルを構築し内閣府へ提出しております。

さらに今年度は、日本におけるインセンティブ制度の導入を目標に、海外5か国の同制度を調査し、内閣府へ報告書を提出しております。

- ⑬ フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査
独立行政法人日本芸術文化振興会

令和2年2月、日本芸術文化振興会よりフランスにおける文化政策及び文化関係予算の概要、文化政策、文化関係予算及び税制における映画振興の位置づけ、映画振興を担当する組織の概要及び映画振興への助成システム等の具体的な内容に関する実態調査を受託致しました。

本件調査は、公益財団法人川喜多記念映画文化財団と共同で実施しました。当初、フランスにおける現地調査を予定しておりましたが、フランスにおける新型コロナウイルスの状況もあり、メール等による質疑等にて代替しました。文献調査、各種資料の翻訳を整理・分析の上、報告書を策定致しました。

- ⑭ 令和2年度文化芸術収益力強化事業(新規) 文化庁

本事業は、新型コロナ禍以降の文化芸術団体等の収益機会の減少による経営危機的な状況を受け、事業構造や制作・表現等の手法改革による収

益力強化の方策検討を目的として、令和2年9月17日に文化庁より受託致しました。

本事業は、下記の2つの事業にて構成されています。

I. 提案事業：文化芸術収益力強化学業の具体的な手法を例示的に実施する事業。具体的には、以下の「取組1」と「取組2」があります。

【取組1】「ライブハウス・ミニシアター等と連携した公演等収録・上映・イベント・配信等」（対象分野：音楽・映画・メディア芸術）

【取組2】「新しい鑑賞環境の確立による将来的な鑑賞者の拡充に資する制作・表現モデルの構築」（対象分野：伝統芸能・映画・メディア芸術）

公募事業：提案した具体的な手法に取り組む芸術団体等を公募し交付金を採択した事業者に対して交付する事業です。当機構が運営事務局を担当します。

提案事業8件は無事実施、公募事業75件は4件がコロナの影響で中止となりましたが、残り71件は無事実施され確定検査も終了しております。

- ⑮ 「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」に係る申請システム構築及び事業運営業務(新規) 文化庁
令和2年度第3次補正予算による「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」の補助金事務局業務を受託致しました。新型コロナウイルスにより文化芸術活動の自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体・文化施設による、公演・演奏会・コンサート・ライブ、展覧会等について、活動の持続可能性の強化に資する積極的な活動を支援することを目的とする補助金で、4月中に公募開始予定となっております。事業の名称：「ARTS for the future!」（略称：AFF）。

(3) 自主事業

① VIPO アカデミー

2015年5月に1コースを開設し、今年度は6年目を迎えました。

新型コロナウイルス感染拡大を受けて緊急措置として春期コースは開催を中止、その代わりとして主にZoomを活用したオンラインセミナーを複数開催しました。

具体的には、オンラインセミナーを6～9月にかけて無料：3、有料：8を開催し422名（内無料：280名）に受講いただきました。

そのノウハウをVIPO内にも共有し、他部署でオンラインセミナーやオンライン説明会を開催する際にはサポートとして参加し、VIPOにてオンラインイベントが開催（主催、運営）できる体制づくりに貢献しました。

I. 春期（5月～8月）の実績（以下、参加者人数は、VIPOスタッフ除く）
新型コロナウイルス感染拡大を受け、すべて開催中止

II. 秋期（9月～11月）の実績

「コーポレートリーダーコース」参加者9名

「プロジェクトリーダーコース」参加者10名

「リーガル・エッセンシャルコース」参加者10名

「ファイナンス・エッセンシャルコース」参加者8名

III. 冬期（12月～3月）の募集状況

「業界研究ベーシックコース」参加者（一括）11名

（単発）のべ274名

IV. インハウス研修その他

前年度より実施している企業への派遣型研修をポニーキャニオン、アスミック・エース、スペースシャワーネットワークへ実施。

V. 来年度への展望

今期は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、予定通りの開催が出来ていませんが、オンラインで特に問題なく実施する事が出来ました。2021年5月には開講より7年目に入ります。春期は今期同様にオンライン開催を行います。秋期以降の状況はまだわかりかねますが、会場開催、オンライン開催、いずれの形でも開講できる準備を整えます。更なるコース内容の充実と受講者のニーズに対応するために、各コースの講義内容や講師の精査、企業へのヒアリングを実施して、それをもとに必要な変更を実施します。

派遣型の講座および短期講座においても、同様に会場、オンラインいずれの形でも開講可能となり、その開催も併せて推進することで、参加企業、参加者の増加及び事業採算の向上を目指します。

② セミナー・ワークショップ事業(有料)

- 「ACG（アニメ・コミック・ゲーム）で知る中国コンテンツ（入門編）」
 （5月20日、オンライン開催）
 講師：峰岸宏行氏（北京動卡動優文化傳媒有限公司（北京 MYC）海外事業部長、株式会社 MYC Japan 代表取締役社長）
 参加者：87名

- 「中国ビジネス攻略セミナー：ビジネス編」（6月24日、オンライン開催）
 講師：分部 悠介氏（IP FORWARD グループ総代表・CEO）
 参加者：96名

- 「中国ビジネス攻略セミナー：法律編」（7月1日、オンライン開催）
 講師：分部 悠介氏（IP FORWARD グループ総代表・CEO）
 参加者：83名

- 「テレビドラマ制作セミナー ニューノーマル時代のテレビドラマの行方『恋はつづくよどこまでも』」（8月12日、オンライン開催）
 講師：脚本家 金子ありさ氏、TBS プロデューサー 磯山晶氏
 参加者：71名

- 「福井健策弁護士コンテンツ法律セミナー 配信プラットフォーム契約の攻略法 2020」（8月26日、オンライン開催）
 参加者：103名

- 「アクターズワークショップ」第8弾（9月17日、18日、オンライン開催）
 講師：吉川邦夫氏（演出家 大河ドラマ「新選組！」「真田丸」、朝ドラ「すずらん」）
 参加者：11名（俳優）

- 「エンタメマーケット養成講座 2020」（全4回 9月7日、14日、23日、28日、オンライン開催）
 メイン講師：鈴木貴歩氏（ParadeALL（株））

9月7日（月）「エンタメマーケティング概論 2020 と WITH コロナ時代の音楽マーケティング」

参加者：50名

ゲスト講師：梶 望 氏 ソニー・ミュージックレーベルズ 第三レーベルグループ EPIC レコードジャパン

9月14日（月）「ストリーミング時代のデータ分析、デジタルプロモーションについて」

参加者：48名

ゲスト講師：松島 功 氏 株式会社 arne（アルネ）代表

9月23日（水）「テレビが魅せるエンタメマーケティング」

参加者：44名

ゲスト講師：清水俊宏 氏 株式会社フジテレビジョン コンテンツ事業室 副部長 フジレビュー!!チーフビジョナリスト

9月28日（月）「トライブマーケティングと急成長する音声メディア活用」

参加者：44名

ゲスト講師：高野修平 氏 株式会社トライバルメディアハウス所属 / マーケティング レーベル「Modern Age/モダンエイジ」レーベルヘッド / 事業部長 コミュニケーションデザイナー / クリエイティブディレクター、コピーライター、コンサルタント

■ 「城西国際大学 コンテンツ業界研究セミナー」(10月10日、17日 オンライン開催)

4業界(①音楽サウンド・ステージ ②芸能プロダクション ③広告・イベント企画 ④映像/アニメ制作)から各2社にご登壇いただき、業界全体の状況や個別業務の詳細から、その業界を目指す上で「今、やっておくべきこと」など、多角的な方面からお話しをいただきました。10日は、290名、17日は、245名の学生に参加いただき、「とても有意義でした」「具体的な目標ができました」など多くの好意的なご意見をいただくことができました。

■ 「海外見本市で役立つ 英語ショートピッチトレーニングプログラム 2020」(2020年12月～2021年1月、全5回、オンライン開催)

第1回講師：ブランドプロミス合同会社 林美千代氏

第2回～5回講師：日本映像翻訳アカデミー株式会社

参加者：6名

- 「映画プロデューサー養成講座 基礎編」(12月2日～4日、オンライン開催)

講師：安藤紘平氏 早稲田大学名誉教授

ゲスト講師：沖田修一監督

参加者：16名

- 「福井弁護士コンテンツ法律セミナー 舞台・ライブイベントの権利処理と契約」(12月8日、オンライン開催)

講師：福井健策弁護士

参加者：80名

- 「アクターズワークショップ」 第9弾 (2021年3月17、18日、オンライン開催)

講師：吉川邦夫氏

参加者：13名

- 「テレビドラマ制作セミナー ～ヒットの法則 国境を越えて共感されるヒロインの描き方～」(2021年3月25日、オンライン開催)

脚本家：中園ミホ氏、プロデューサー(テレビ朝日)：内山聖子氏

モデレーター：さらだたまこ氏

- 「脚本読込講座」(2021年3月29、30日、VIP0にて開催)

講師：池端俊策氏

参加者13名

(総参加人数：1,300名)

③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築する事を目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatory へ留学を希望する日本人の推薦活動を運営しております。AFI Conservatory への入学が正式に決定した場合、“T.Y. 奨学金制度” がAFI Conservatory の判断によ

り給付される可能性があります。

また、将来的には留学生、卒業生等の講演やワークショップを日本で実施するなど、AFI へ留学を希望する日本人の数および質の向上を目指しております。

- ・VIPO 内サイトにおいて募集告知及び会員を含め約 10,000 名に告知メール配信（8 月）。
- ・映像・演劇関連 2 サイトに告知投稿（8 月）。
- ・募集前後に本年度問い合わせ 3 件あり（8 月、10 月）。
- ・締め切りは 10 月 15 日、本年度は応募が 1 件あり、推薦状を送付した。

④ 交流促進事業

I. 海外の同様の機関等と交流の推進

本年は、新型コロナウイルスの影響もあって海外からの入国が難しく、例年実施している様々な海外の機関との交流を実施する事が出来ませんでした。

⑤ 情報サービス事業

I. Japan Creator Bank（略称：JCB）

JCB に登録されているクリエイター情報の更新を実施し、新規クリエイターの追加も実施しました。また、TCPM との連携により、TCPM に登録されているクリエイターも JCB に登録しました。

サイトのデザインを変更し、ユーザーが使いやすいウェブサイトに変更しました。また、プロジェクトバンク機能を追加したので、現在 JCB 上で脚本家の企画書（約 50 本）を日本語・英語で閲覧することが可能です。プロジェクトバンク機能については、3 月 24 日に国内外にプレスリリースを配信しました。

プロモーションとして、Google 広告や関連サイトへの記事広告等を実施しました。

今年度は全部で約 200 件の問い合わせがありました。国内からの問い合わせの方が多いたが、海外からも問い合わせがありました。海外からの問い合わせの主な成果としては、クランチロールと脚本家の長津晴子さんが共同でオリジナルアニメシリーズの脚本開発をしていくことになりました。また、フィリピンのプロデューサーが落合正幸監督に映画の撮影を依頼したいということで話が進行中です。その他、ある日本の映画を海外でリメイクしたい、国際共同製作の映画にプロデューサーとして参加して欲しい等の問い合わせが来ています。

JCB へ問い合わせがあった案件ではないですが、以前に広州でのビジネスマッチングに参加し、JCB にも登録されている脚本家の荒井修子さんと広州の映画会社がもうすぐ契約締結という段階まで来ています。

II. Japan Content Catalog (略称：JACC)

JACC にテレビのデータベース Japan Program Catalog (JPC) を連携する作業が進行中です。昨年度に引き続き、連携データベースの中国語対応も実施中です。JACC はアクセス数が JCB に比べて少ないので、ウェブサイト自体が SEO 対策されているのか調査を実施しました。来年度、その改善施策を実施する予定です。

Japan Book Bank (JBB) が JACC に連携されました。JL-DB がリニューアルされたことに伴い、JACC との自動連携システムも改修しました。

プロモーションとしては、Google 広告や TIFFCOM サイト/香港国際ライセンシングショーサイトでのバナー掲載等を実施しました。

III. Japan Book Bank (略称：JBB)

日本の出版コンテンツを日本語・英語で検索できるオンラインカタログサイト『Japan Book Bank』を 3 月 18 日にリリースしました。本サイトは、日本の書籍・出版コンテンツと国外の出版コンテンツ関連企業等をマッチングさせ、日本の出版コンテンツの海外展開を促進することを目的としています。本サイトは、VIPO と一般社団法人日本書籍出版協会が共同で運営しており、株式会社トーハンに運営の協力をしてもらっています。リリース時点では、748 点の書籍が検索可能となっています。プロモーションとして、Google 広告や関連サイトへの記事広告等を実施しています。

IV. VIPO Integrated Support System (略称：VISS)

アメリカの配信プラットフォームの調査を実施しました。国別共同製作支援制度の情報の更新を実施しました。中国のコンテンツ関連企業と契約する際の契約書雛形を整備しました。

(4) 組織運営

① 会員の状況

I. 新規入会

個人会員 0 名 法人会員 0 社 賛助会員 0 社

II. 退会

個人会員 0名 法人会員 2社 賛助会員 0社

III. 現在の状況

- ・会員数：個人会員 4名 法人会員 97社 賛助会員 9社
- ・会費及び入会金 入金額(予定含む) 49,180千円 (昨年比 1,000千円減額)

② 通常総会、理事会、幹事理事会

I. 通常総会

本年度は新型コロナ禍による決算業務等の遅れにより、東京都 NPO 室への確認の上、通常年よりおおよそ一ヶ月程度遅い、令和2年7月28日に通常総会を開催し、令和元年度の事業報告・会計報告、令和2年度の事業計画・予算・役員を選任等について決議をいただきました。尚、本通常総会は新型コロナウイルス感染症への対応を考慮に入れ、実参加に加えオンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

II. 理事会

- ・令和2年6月25日に開催し、通常総会の審議事項について決議いただきました。
 - ・令和2年7月28日の通常総会後に開催し、理事長、副理事長及び幹事理事の互選について決議いただきました。
 - ・令和2年11月26日に開催し、中間事業報告を行いました。
- ※本年度は上記3回の理事会について、オンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

III. 幹事理事会

- ・令和2年6月25日に開催し、令和元年度の事業・会計の報告を行いました。また、令和2年度の事業計画(案)・予算(案)・役員を選任(案)、理事長、副理事長、幹事理事互選(案)について報告を行いました。
 - ・令和2年11月26日に開催し、中間事業報告を行いました。
- ※本年度は、オンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

IV. 会員交流会

例年、通常総会後に開催している会員交流会ですが、本年度は新型コ

コロナウイルス感染症の状況を考慮に入れ、開催を断念致しました。

(5) 広報活動

① 「VIPO 年間活動報告 2019」の発行

「VIPO 年間活動報告 2019」(32 ページ)を6月26日付にて発行し、会員及び役員に配布しました。事業・広報活動等において“対面”で説明する際に活用しております。また、新たに8ページ(両観音開き)の「VIPO 事業紹介 2020」という冊子(簡易版)を作成し、こちらは、不特定多数への配布用として利用しています。海外向けとしては、昨年作成したVIPOのミッションやサービス内容をメインとしたシンプルな英語用のリーフレット(A4半分サイズ/2ページ)をそのまま活用し、英語サイトに誘導するためのQRコードを記載しているため、英語サイトの更新を随時行うようにしています。

② ホームページの運営

ホームページにおいて、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載いたしました。

2016年9月より開始したコンテンツ業界に関わる人やイベントをテーマにしたインタビュー企画では、以下を取り上げました。

■2020年5月

エンターテックがカルチャーを作る ～デジタルの進化とエンタメマーケターの役割～

■2020年7月

香港貿易発展局の東京事務所に直撃！ 今、知っておくべきコンテンツビジネスにおける香港の活用方法

■2020年9月

ベルリン国際映画祭「European Film Market / Berlinale Co-Production Market」紹介セミナー から再構成 ～各マーケットの概要、日本から参加することのメリットとは～

■2020年9月

書籍にとどまらず多彩なIPが集まる世界最大級の見本市「フランクフルト・ブックフェア 2020」が初のオンライン開催に——ドイツ政

府の助成により参加無料！（セミナーより再構成）

■2020年10月

プロデューサー養成ラボ「RotterdamLab」——私たちが5日間で学んだこと、これからに向けて！

■2020年11月

担当者の熱意が会社を動かす——日本レコード協会 重村会長が語る 360度ビジネスと人材育成の秘訣

■2020年12月

内閣府に聞く——新型コロナウイルスがコンテンツ業界にもたらした社会的変化とニューノーマル

■2021年1月

世界最大級のコンテンツマーケット「MIPCOM 2020」が昨年オンラインで開催——その概要とオンラインによるメリットとは

■2021年2月

ハリウッド映画音楽監督に学ぶ！GMSが教える音楽プレイスメントのあり方とは

■2021年3月

人形アニメーション作家・村田朋泰さんが語る——海外には自分の作品をキャッチしてくれる人がいる！

③ VIPO 会員とコンテンツ事業者へのメール配信

VIPO の活動報告を毎月定例で発信する「VIPO プレス」の発行と、会員各社の情報や事業活動などを不定期に発信する「VIPO ニュース」を継続的に発信しました。メールニュースの配信先数（コンテンツ事業者）は、約 10,600 件（2021 年 3 月末現在）です。

④ 事業活動情報の記事露出

各イベントへの取材誘致活動やプレスリリース配信などを通し、プレスに対し事業活動の最新情報を定期的に発信することで、業界紙・誌を中心にパブリシティを獲得いたしました。新型コロナウイルス対策の一環として

の J-LODlive の補助金をスタートしたことにより、これまで問い合わせの無かったメディア（朝日新聞経済部、毎日新聞統合デジタル取材センター、女性セブン、週刊新潮等）からの問い合わせもありました。

→昨年度は約 372 件の記事掲載がありました。今年度は約 531 件の記事掲載がありました。（※VIPO 名の記載がない記事は除く）

以上